

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 64 号 2016 年冬号

<http://nadogaya-biotope.org/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：篠崎 将 Tel/Fax 04-7173-6353

第 14 回定期総会開催

1月23日（土）10：00～13：30（懇親会まで）



生きもの活動報告
（松清さん）

「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」第 14 回定期総会が、1 月 23 日（土）に名戸ヶ谷ふるさとセンターで開催されました。

出席者数 18 名（委任状 14 名）、来賓 4 名



総会での会計報告（佐藤さん）

と多数の出席で、会長、環境政策課の原田課長の挨拶で始まりました。議案の審議では、全般・稲作・生きもの・植物・広報について 2015 年の報告と 2016 年の計画の審議があり、全員の拍手で承認されました。また会計決算・監査報告、予算案についても全員の拍手で承認され無事終了しました。

議案決議後の意見交換では、名戸ヶ谷小学校の稲作学習復活のために学校や父兄への放射線データの十分な説明、参加形態の検討などを環境政策課と一緒に働きかけていきたいとの意見があった。

（小笠原 智）

「若い人を呼び込む工夫 あれこれ」

定期総会 第2部



講演会：高橋氏

第2部では「下田の杜里山協議会」の高橋さんによる「若い人を呼び込む工夫 あれこれ」の題目で講演会が行われました。下田の杜には私も何度も行っていますが、フクロウの住む森と池、田んぼ、畑、広場があり自然が満載の素敵な所です。高橋さんからは、積極的な若いお母さんの協力で子供参加のイベントを行い、色々な作業や作業後の食事会等を通じて多くの参加者を呼び込み活動しているとのこと。子供たちの作業内容や会員のサポート等具体的な活動状況についてプロジェクターを使ってお話して頂きました。講演後の質疑応答でもビオトープとは、環境や作業形態（稲作作業）が異なりますが、多くのヒントを頂き、ビオトープの新しい会員募集活動につなげていきます。本当にありがとうございました。パソコンの設定ではご迷惑をお掛けして済みませんでした。

総会、講演会を終えた12時過ぎから懇親会が行われました。都合で一部退席される方もいましたが多くの会員が参加され、有意義で楽しい時間を過ごしました。高橋さんの講演をヒントにこれからの新規会員の加入対策や名戸ヶ谷小学校の活動参加復活支援等についても、更なる意見交換が出来ました。幹事の皆さん、ご苦労様でした。

(小笠原 智)



懇親会でも話が弾みました（右端が高橋氏）

「合同作業日」事始め

右の写真は2003年7月の写真です。なんだかお分かりですか。

答えは、場所はBゾーンの北側、写っているのはガマの群れです。

2003年と言えば名戸ヶ谷ビオトープを育てる会が発足したその年です。私は当時の「生きもの部会」の植物担当をしていて、ビオトープの植生をどうするかについて立案中でした。

当時のBゾーンは下の図のようにガマとヨシとマコモの大型の湿生植物が全面を覆っていました。そのBゾーンの北側を可愛い花が咲く湿地にしようと決めました。それを実現するためには写真のようなガマの密生を毎年刈り取らなければならず、本当に実行出来るのかどうかいささか不安に陥りました。

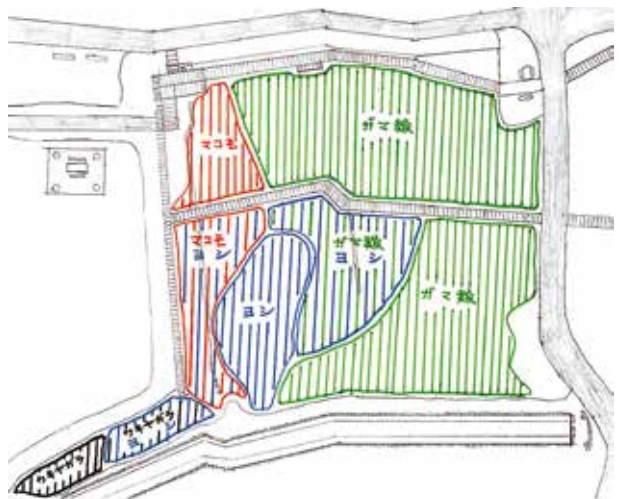
と言うのは、当時は写真のようにBゾーンの北側も湧水が満たされていたので、立ち入って刈り取るのも一苦勞でした。更に致命的だったのは、当時の植物担当のメンバーはほんの数名で女性が主体だったため、湿地内での実作業力ははなはだ心もとないものでした。実際、ガマの刈り取りを始めたのですが、苦闘の連続でした。

当時は稲作やホタルに関する部会には多くの人が集まっていた、今と違って、その各部会はそれぞれ独自に日を決めて別々に作業していました。

困難な作業と人手不足に悩んだ私は各部会の作業を同じ日に設定してもらい植物班の作業に手を貸してもらえないかお願いしました。これが認められ「合同作業日」が始まったのです。それ以降は、稲作部会の屈強な男性の協力を得ることができ、何とか毎年ガマなどの刈り取りを行い、徐々にガマの勢力を抑えることに成功しました。

今日のようなBゾーンの姿に変わったのは当時の稲作をはじめとする他の部会のメンバーの協力のおかげです。現在は部会制がなくなっていますが、皆さん総力のおかげで維持できていることに変わりはありません。

(佐々木光正)



木道修繕・休耕田への水路工事報告

Bゾーンの会員で作成した木道の踏み板や根太が腐朽して危険な為、環境政策課に材料の支給をお願いし、交換修繕作業を進めています。ザリガニ釣り場の奥側、回生の里側の踏み板と下の根太を交換しました。今後はAゾーンの旧ホテルゾーン側も修繕していきます。（小笠原 智）



ザリガニ釣り場奥の木道（修繕前）



修繕後



根太もシロアリの害



回生の里側（修繕後）



うるち田3・4番へ畦・水路の新設
（交換した木道の踏み板を利用）



作業しているとカワセミも来ます
（三角池で餌を狙っていました）

合同作業日の活動状況

12月、1月の合同作業日の活動状況のお知らせをいたします。12月の合同作業には10名ほどの会員が参加し、写真の作業場所のほか、木村邸前の斜面の雑草刈りや、ハンノキの掘り起こし移植作業などを実施しました。また年末に当たりビオトープ全般にわたり、ごみの収集や気になる場所の清掃など実施しました。

12月19日(土)



ザリガニ釣り場の葦が育って来たため、右写真のように刈り取りを実施し、きれいにしました。



ホタルゾーンの斜面部分が落ち葉が大量に飛散しており、落ち葉収集を実施し右写真のようにきれいに取り除き作業を実施しました。

11月16日(土)

この日、会員8名が参加され、三角池の清掃や、木村邸前のU字溝の清掃およびニホンアカガエルの産卵場所の整備など行い、産卵池の掘り起こしや田の畔付近の掘り起こし作業を実施し産卵に備えました。



左の写真は、Bゾーンの従来からあるカエルの産卵池を雑草などを取り除き整備し、右はAゾーンの田の畔の付近を掘り起こし、蛙の産卵しやすい環境作りを行い、蛙の産卵に備えました。

(園田廣満)



木村きくさん ご逝去

ビオトープの地主である 木村きく さんが、1月5日、91歳でご逝去されました。Aゾーンの水田や湿地及び、倉庫とその前の広場をビオトープを育てる会に無償で提供してくださいました。特に倉庫と倉庫前の広場は、稲の脱穀作業等にはなくてはならない広場です。また毎年秋には、収穫祭の会場としても使わせていただいています。その他、観察会等で人々が集まって説明をしたり、捕えた生きものを観察したりする場所としても、活用させていただいております。

このように、ビオトープの活動において、欠くことのできない場所を無償で提供していただき感謝に堪えません。

お陰様でビオトープは、豊かな生態系が維持されています。2月21日には千葉県では最重要保護種に指定されているニホンアカガエルの卵塊調査を行いました。過去最多の卵塊数を確認いたしました。今後ともビオトープが、更に豊かな生態系になるよう活動しなければならないと考えます。

そのことが、木村きくさんのご遺志に沿うことになると考えています。生前の、ビオトープに対するご配慮、ご協力に深く感謝いたしております。有り難うございました。ご冥福をお祈りいたします。（篠崎 将）

会長からの電話で訃報を聞き、驚いてしまいました。秋ごろから腰を痛めて入院していると聞いていましたが、きくさんは実家の母より1歳上ですが、母と同じで、小柄で長い農作業生活で腰が曲がっていました。花が大好きで、花壇や畑に色々な花を植えて楽しみ、また野菜作りも上手でもう一人の母のようでした。作業場横の畑を耕やしたり、植木の枝を剪定した時にはお茶とお茶菓子を作業場まで持ってきてくれました。ビオトープで作業をしていると「お茶飲んでけ」と言われて居間にお邪魔した時も私の愚痴も聞いてくれました。作業場倉庫のパイプ置き場下には湧水池があり、田んぼまでのパイプで繋がっていること、石垣下の排水溝から田んぼ側までパイプをきくさんのご主人が埋めたこと、腰まで埋まって田植えをしたこと等色々教えて頂きました。名戸小の子供たちが総合学習で田植えや稲刈りをしている時に木道から声をかけていた姿が目には浮かびます。ご好意でお借りしている作業場をはじめ、敷地の花壇や庭、植木などいつもきれいにしておくことに努めていたきくさんの思いを少しでも保持していけたらと思っています。安らかに眠りください。（小笠原 智）

ビオトープが発足してまもない頃、花のアルバムを持ってお邪魔したのがきくさんとの出会いの始まりでした。差し出された茶菓子を頂きながら、ビオトープの植生に関連する様々な話を聞くことができました。きくさんが「春になって湿地の若葉が輝く様が一番好きだ」と語った顔を今も思い起こします。その後、ビオトープ10年誌を編集する機会があり、きくさんの昔話を聞こうと思い立ち数回お邪魔しました。きくさんは自分自身の昔を懐かしむようにビオトープ周辺の様々な昔の姿を語ってくれました。私たちが利用させて頂いている小屋は「昔は湧水が湧き出る池だった」と言う話には驚かされました。湧水と共に生活していた木村家が、亀甲台開発により湧水に苦しむようになった経緯や、周辺開発によってホテルが消えていった経緯など、きくさんの話は今のビオトープが抱えている悩みの源に及んでいました。きくさんが語ってくれた話を思い起こすと、もっと多くの話を聞いておくべきだったと悔やまれると同時に、きくさんの意志を少しでも継いでビオトープの自然を護ってゆかねば、と思います。（佐々木 光正）

柔らかな日差しの中、ビオトープの自然に溶け込んだような姿がそこにありました。時々、ビオトープの倉庫（木村さんの納屋）に出かけると、「こんにちは」と人懐っこいあいさつが帰ってきて、あとは黙々と草引きをされていた姿。「草は元気だから、放って置くと雑草だらけになってしまう・・・」とゆっくりしかも結構長い間、手を動かし頑張っておられた姿・・・。また一人、このすばらしい自然のなかに帰って行ってしまったのか・・・？いつまでも「きくさん」の優しい姿とこの自然が残りますようにと願い、只々、ありがとうございますとご冥福を祈るばかりです。（久米 正宏）

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏市東口より東武バス（1番乗り場）「名戸ヶ谷行き終点（名戸ヶ谷病院前）下車すぐ

面積：約4,400㎡ 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）